



## 1-8 ステップ 8：成果の自己評価

～狙った効果が出ているか確認して改善へ～

**キーワード** ・アウトカム評価 ・アウトプット評価

### ●このテーマで目指すゴール

- ・評価の考え方と概要を知る
- ・自分たちの活動評価ができるようになる
- ・評価を活動の改善に結びつけることができるようになる

### 患者さんからの質問

行政に政策のアウトカム評価の実行を求めています。担当者から「あなたたちのプロジェクトの評価はどうしていますか。参考に教えてください」と聞かれました。

### ●評価とは何か

評価とは、どういうことでしょうか。平たくは、「何がうまく行っていて、何がそうでないのか。どこをどう修正すればいいのか考えること」と言ってもいいでしょう。

では、なぜ評価をすることが大切なのでしょう。それは、いくつかの理由が見つかります。まず、社会課題を解決したいと考えて活動をしているのですから、「効果を出す（もしくは、大きくする）ため」ということがあるでしょう。また、個々の活動の成果が大きくなるだけでなく、それが好事例として広がれば、外への波及もあると考えられます。さらに、仲間の参加者や支援者へのフィードバックとして結果の様子を情報提供する意味もあります。よい成果があれば、関係者が鼓舞され、また支援者や寄付者の増加にもつながるでしょう。

日常的に使われる「評価」という言葉ですが、その意味は多様で幅広いものがあります。政策や事業の評価については、評価学として方法論がかなり確立・発展していますが、詳細な説明は本書第 3 章「政策立案と評価のときに」を参照いただくとして、このセクションでは、アドボカシー活動をする際に本書 1-3「ステップ 3：目標の設定」で作った目標を検証するという観点から、簡単に説明します。

### ●評価の仕方

評価の前提として、まず、「ステップ 3：目標の設定」でみたような目標を設定しておくことが大切です。逆に、目標を設定する際には、この「ステップ 8：成果の自己評価」で触れる評価の仕方をあらかじめ念頭において、上手に行うことが肝要となります。ステップ 3 では、アウトプット目標のみならずアウトカム目標を設定することが重要ということ

びました。ですから、評価においても、アウトプット目標だけでなくアウトカム目標の評価を行うことがポイントとなります。

ステップ3の表で使った例のうち、投手力強化でリーグ優勝を目指した「野球の例(2)」のケースで考えてみましょう。投手力を強化する活動がどうであったかというアウトプットだけでなく、実際に、投手が獲得されたのか、活躍したのか、それが目的のリーグ優勝に結びついたのかというアウトカムを確認することが当然ながら重要です。

表1のような3とおりの結果のストーリーを想定して、さらに検討してみましょう。「架空ストーリー1」の場合は大成功です。「架空ストーリー2」では、予定どおりの対策が打たれ(投手が強化され)たものの、別の要因(打力不足)により、目指す最終アウトカム(リーグ優勝)につながりませんでした。そもそも、課題は打力不足だったのに、投手力不足と認識違いしていた可能性があります。情報の収集と分析が足りず、そもそもの対策を間違えていたのかもしれない。そうだとしたら、来年の対策は打力の強化に転換する案が考えられます。「架空ストーリー3」は、対策実施の失敗(希望するA投手を獲得できなかった)があったため、結果が不十分になりました。この場合は、対策自体は間違っていないので、来年はその対策をさらに強化する、ということが考えられます。

## ●評価の際の留意点

活動の推進や日々の対応に追われ、評価はついつい後回しになりがちです。ですので、次のようなことを決めておくことが大切とされています。

### 1. 評価の仕方をあらかじめ決めておく

だれが(どの会議体が)、どのような指標と観点から、いつ評価を行うのか、活動を始める前に予定しておきます。

### 2. 評価の労力を当初から確保しておく

評価のための、調査、アンケート、記録などのための人員、時間、費用などを計画と予算の段階で想定しておきます。

### 3. 評価の結果をPDCA(計画、実行、評価、改善)に活かす

指標の計測や、目標の達成度を見るだけでなく、よりよい対策は何か、より確実な実行は何か、より効果的な進め方は何かなど、検討して活動の改善に結びつけます。それを年間スケジュールに組み込んでおきます。

評価は最終的には人智を尽くした営みです。先の野球の事例の「ストーリー3」で、もう一年、B投手のさらなる活躍に期待する方針を続けるか、第1希望A投手の獲得に再度挑戦するか、それはチームの検討と合意の結果の選択となります。しかし、そのためにも目標を明確にし、データを集め、建設的な議論ができる環境を整えておくことが前提となるのです。

＜表 1＞野球のリーグ優勝を目指したケースでの、投手強化対策の評価（架空例）

目標	アウトプット	投手力強化のため、A投手を獲得する活動をする。		
	初期アウトカム	A投手を獲得する		
	中間アウトカム	15勝を上げる		
	最終アウトカム	リーグ優勝する		
架空ストーリー		<1>	<2>	<3>
	アウトプット	A投手を獲得する活動をした	A投手を獲得する活動をした	A投手が無理そうなので、第2希望のB投手獲得活動に切り替えた
	初期アウトカム	A投手を獲得した	A投手を獲得した	B投手を獲得した
	中間アウトカム	15勝した	5勝した	10勝した
	最終アウトカム	リーグ優勝した	リーグ4位となった	リーグ3位となった
評価	総合評価	うまくいった	うまくいかなかった (他の要因による失敗)	うまくいかなかった (対策実施の失敗)
	論理の評価	対策が正しかった	<b>投手力より打力が弱いことが課題であった</b>	対策は正しかったかもしれない
	実施の評価	予定どおり実施された	予定どおり実施された	<b>予定どおり実施できなかった</b>
	効果の評価	予定どおりの効果が出た	投手は結果を出したが、リーグ優勝に至るまでの効果はなかった	予定の対策ができなかった ので、効果が出なかった
	費用対効果の評価	費用が掛かったが、効果があったので、肯定できる	費用に対し効果が十分でなかった ので、肯定できない	費用は少ないものの、効果が小さいので、肯定できない
改善		<b>来年も同方針を継続</b>	<b>来年は、打力の強化に方針転換する</b>	<b>来年はより有力な投手の獲得の努力をする</b>

◇ さらに詳しく知りたい方のために

- ・ 竜慶昭、佐々木亮 『「政策評価」の理論と技法』 多賀出版、2004年